

平成世代や女性層に向け、 新しい試みにチャレンジ。

鹿児島県支部

校友同士の「絆」が強い反面、若手や女性の校友の支部総会などへの参加がまだまだ少ないという、全国共通の課題を抱えている鹿児島県支部。そうした校友が参加しやすい仕組みづくりなど、支部のより一層の活性化を図ろうとしています。

鹿児島県の話題としては、九州新幹線鹿児島ルート全線開通を来年春に控えていること。JR鹿児島中央駅から博多駅まで約1時間20分、新大阪駅まで約4時間となります。新しい交流、観光ビジネス需要の拡大なども期待されていますが、まず、鹿児島県支部についてお聞きしました。

「鹿児島県は鹿児島市が中心で、県内の校友も70%くらいは鹿児島市に集中しています。他の都道府県から校友が帰ってきたり、あるいはイベント的なことがあると、電話一本で20人から30人は、すぐ集まるなど『絆』は強いですね。鹿児島県支部の特徴の一つとして、離島が多いことです。大きい島では屋久島、種子島、徳之島をはじめ、小さな島は無数にあります。そうした島々には校友もおり、人数的にさほど多くはありませんが、支部総会に参加してくれる人もいます。また、鹿児島県は飛行場が多く、離島を結ぶ生活空港となっています。

お話を
聞いた人

専修大学校友会
鹿児島県支部長 肥後勝司さん
(昭38・商経経)

鹿児島県支部

- 校友会員数(総会などの案内送付数) / 約500名(返信があるのは200名、多くて300名)
- 支部総会出席者 / 50名ほど
- 鹿児島県全校友数 / 約800名(校友課にて確認×××名) ※2010年2月末現在

久しぶりの明るい話題といえば、本学出身であり、また鹿児島市在住のプロゴルファー、小田龍一氏の『日本オープン』優勝です(本誌6~7ページ『われら専修人』参照)。校友同士でも大いに盛り上がりました。ゴルフにしろ、箱根駅伝にしろ、スポーツが話題になればなるほど、支部総会などの参加者も増えると思います。スポーツだけではなく、司法試験合格者、公認会計士合格者などの情報も校友に伝えるようにしており、そうしたことで専修大学とのつながりを、いつまでも持ち続けてほしいと思っています。

支部の課題としては支部総会の参加者も、他の多くの支部と同様に高齢化しています。若い校友の参加を促し、支部の活性化のために支部総会とは別に、若い校友を中心とした『平成部会』を立ち上げようとしています。鹿児島市にも若い校友はかかりますが、なかなか支部総会などには参加してくれません。そこで、若い人たちだけの『平成部会』をつくったり、また、女性向けに『女性部会』をつくって、若い女性でも参加しやすいようにしたいと考えています。将来的には、合同で支部総会が開催できればと考えています」

(聞き手・編集部)

スポットミニガイド 支部のある街

樹齢1500年の古楠

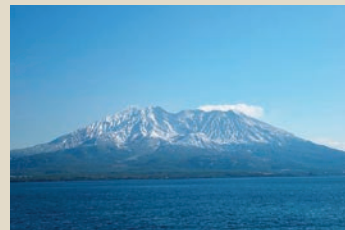


鹿児島県始良郡蒲生町には、江戸時代からの武家屋敷群が残っています。その高台にある蒲生八幡神社境内にある楠は、高さ約30mという巨樹です。国指定特別天然記念物。

黒酢 黒豚 黒牛

鹿児島の特産品には、「黒」が付く食べ物や飲み物などがいろいろあります。その多くが伝統的な食材や料理で、おいしさとヘルシー感覚で人気を集めています。

桜島



錦江湾(鹿児島湾の別名)にある島で、過去多くの噴火が記録されており、1914年(大正3年)の噴火で大隈半島と陸続きとなりました。写真は今年1月14日の降雪。

撮影/永山一秀(昭48・法律)

九州新幹線



ボディに伝統的な「白藍(しらあい)色」を使用した「さくら」、車内インテリアに九州特産の素材・工芸品を使用した「つばめ」の車両が走ります。写真提供/鹿児島県観光課

主な年間活動カレンダー

年に1回	支部総会
年に2回	幹部会
	九州連合総会
随時、スポーツ関係のOB等が来鹿した際、激励会、差し入れ等を行っている。	